



町立病院だより

ステロイドって怖い薬？

「ステロイドを使うのは怖い」という声をよく耳にします。副作用の多さや、昔からの悪いイメージにより、特に高齢の人々の抵抗感は強いように感じます。しかし、ステロイドには、抗炎症作用（今起きている異常な炎症を抑える）と免疫抑制作用（免疫反応を起こりにくくする）という効果があるため、数多くの病気に対して使われています。

膠原病とステロイド

膠原病とは、本来自分の体を守るはずの免疫システムに異常が起きることで、全身のさまざまな部位に炎症や障害が起こる病気です。関節リウマチは、膠原病という大きなカテゴリーに含まれる一つの病気です。膠原病の治療の基本は、「異常な免疫反応」と「炎症」を抑えることです。そのため、多くの膠原病では、免疫抑制作用と抗炎症作用を持つステロイドが使用されます（右図参照）。

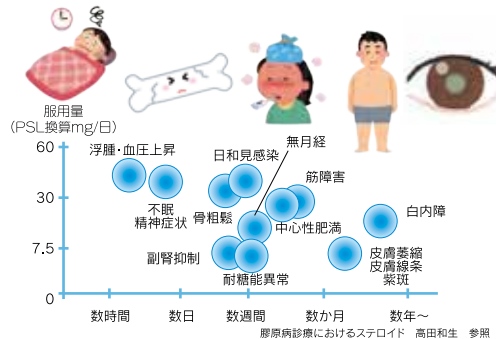


副作用は大丈夫？

ステロイドには右図のような副作用がありますが、必要最小限の用量に調整し、用量に応じた個別のリスク予防計画を立てることで、副作用を最小限にコントロールしています。膠原病診療の歴史は、最大限の治療効果を追求しつつ、どのように副作用を減らすかという問題に取り組んできたものと言えます。

ステロイドを服用したからといって、副作用の全てが起こるわけではなく、日常生活の工夫や投薬で十分対応できるものも多いため、使用をむやみに恐れる必要はありません。自己判断で急に内服を中止しないようにしてください。もし不安なことがあれば、その度に主治医へ相談しましょう。

継続服用した際の副作用発現時期



地方独立行政法人
川崎町立病院
非常勤医師
(九州大学医学部 第一内科)

きむら こういち
木村 光一



ホームページ